

事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	キャリア教育・ふるさと学習支援事業費			
担当課係名	学校教育 課	学校教育 係	作成者	鈴木 徹
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		
	基本計画	教育文化		
	主要施策	学校教育の充実		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	2.3 項 小・中学校費	2 目 教育振興費
事業期間	平成 25 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス	<input type="checkbox"/> 公共事業	<input type="checkbox"/> 施設維持管理	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務		
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託)	<input type="checkbox"/> 民間委託 (全部)	<input type="checkbox"/> 補助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内小・中学校の児童生徒
事業の目的・意図 (どのような状態にしたいのか)	仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心、確かな学力、健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」のうち、特にふるさとへの愛着と誇りをもち望ましい職業観・勤労観を身に付けた児童生徒を育てる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	各小・中学校が行う「ふるさと学習」と「キャリア教育」の充実のために体験活動の充実と学習活動の推進を図る。

【事務事業の推移】

		項 目	単位	2年度実績		
効果	活動指標	仙北市の学校教育の重点を反映し、その育成に資する内容の事業を実施した校数	目標	校	11	
			実績	校	11	
			達成度		100.0%	
	成果指標	仙北市の学校教育の重点を反映し、その育成に資する内容の事業を実施した校数	目標	校	11	
			実績	校	11	
			達成度		100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費 (人件費を除く) (A)			2,256		
	人 件 費 (B)		—	81		
	職 員 数		—	0.01		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A) + (B) 投下コスト		—	2,337		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			2,337	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	212,455		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	93		

【事務事業の今までの成果】

■角館小学校のさくらの町の案内人 ■白岩小学校の地域住民とのふるさと交流活動 ■生保内小学校の仙北市をPRする一連の活動 ■神代小学校の花壇や学校園等での学校環境美化活動 ■西明寺小学校ネギ植えからその販売までを行う一連の活動 ■松木内小学校のたんぼアートと紙風船制作 ■角館中学校の桜・お祭り等のふるさと学習 ■生保内中学校の田沢湖の鳴砂再生体験活動 ■神代中学校の4つのボランティア活動 ■西明寺中学校の鎌足和紙紙すき体験活動 ■松木内中学校のボランティアを中心とする地域活性化に寄与する活動等、地域貢献・地域連携の活動を通して、SDGsを意識した取組が図られている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県の「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」では目指す姿を「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」としてふるさと教育、キャリア教育は一層重視する方向にある。他の自治体も同様である。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	この事業によって児童生徒の教育指導面の効果が大きいという学校からの声があると同時に保護者・地域住民からも事業の継続・充実を要望する声が多い。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	長期的視野に立った場合、この事業の目的は、将来ふるさと仙北市に還ってふるさとのよさを活かして起業するような人材を育成することにある。各学校の特色ある取組は財政的支援の拡大で一層充実させることが見込まれる。よって、事業内容等を精査・充実させながら財政的支援を拡大することが望ましいと考える。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	各地域や学校の特色に応じた活動を展開することができ、児童生徒の教育指導面の効果が大きいという学校からの声があった。子どもたちの心に残る学習になるように今後も学校と連携を図りながら、学習内容や体験内容等のソフト面の充実を図っていきたい。

